

生態系に配慮した道路事業の実施について
～読谷道路におけるコウモリ調査の中間報告～

北部国道事務所 調査課長 ◎^{なかまつ}仲松 ^{とくしゅう}徳修
調査係長 ○^{たから}高良 ^{しげひろ}茂宏

1. 目的

北部国道事務所で事業を進めている読谷道路（読谷村親志～座喜味）の計画路線上に「座喜味トーガーの壕」と呼ばれる洞窟がある。そこで沖縄本島中南部個体群の生息が北限と言われる重要な動物種であるオキナワコキクガシラコウモリが確認されている。

オキナワコキクガシラコウモリは、特殊な環境で生息し、森林の減少等による生息環境の悪化等で個体数が少なくなり、近い将来における絶滅の危険性が高い種に指定されている。

また、生態に関する調査報告や保全対策事例等の情報も少なく、事業の実施が本種へ与える影響や保全対策方法等が明らかになっていない。

本稿は、オキナワコキクガシラコウモリの生態系に配慮して進めている調査及び保全対策の検討について中間報告を行うものである。

2. 内容

- (1) オキナワコキクガシラコウモリの一般生態
オキナワコキクガシラコウモリの生態と生息環境
- (2) 調査内容
座喜味トーガー壕及び周辺における現地調査
 - ①コウモリ出洞数調査（利用状況の確認）
 - ②周辺洞窟調査（分布状況の確認）
 - ③標識調査（行動圏の確認）
- (3) 保全対策の検討
調査結果を踏まえた保全対策の考え方

3. 結論

これまでの調査から、事業の実施に伴うオキナワコキクガシラコウモリの生態系への影響は少ないと考えている。しかし、事業が及ぼす影響を可能な限り抑制し、生息・生育環境の変化を少なくすること、また、道路空間を活用した新たな生息・生育環境を創出していくことで、事業完了後もオキナワコキクガシラコウモリと道路が共生していけるものとする。

4. 今後の問題点

- (1) 効果的な保全対策の実施
有識者等の意見を踏まえた効果的な保全対策の立案・実施
- (2) 対策効果の検証
保全対策実施後の対策効果の検証・評価